

課題関連図を活用した中学部自立活動の指導実践

～給食指導場面の食事に注目して～

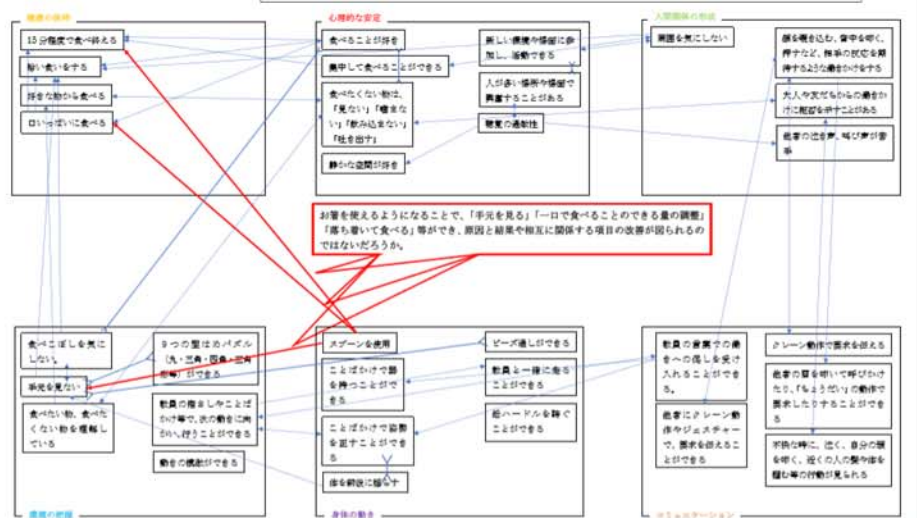
【はじめに】
生徒の課題を整理し、目標や指導・支援内容の設定を行うための子どもの見方や見目といった教師の専門性の向上をねらいとし、そのためのツールとして「現象関連図」と「課題関連図」を用いた指導実践を行った。本研究では、知的障害特別支援学校における中学部の自立活動の指導・支援において、学校生活場面の給食指導の食事に注目した指導実践を展開し、その教育的効果と課題を明らかにすることを目的とする。

【研究の手順】
実態把握は、当該学年の教室を使用し、対象生徒を含めた生徒6名(対象生徒以外も含む)と教師3名での給食指導場面の観察と、定期的に前方から定点で動画と前方・左右から撮影した静止画と動画の記録から各関連図を作成した。さらに、以下の手順で課題の根拠を明らかにしながら対象生徒の目標設定を行い、指導・支援後の学習成果から教育的効果の検証を行った。

①対象生徒のプロフィールを6つの区分27項目に整理する。

1. 健康の保持 ・動作(歩・指) ・好きな食べ物から食べる ・10分程度で食べ終わる ・口の辺りに食べ残す ・静かな空間が好き	2. 心理的な安定 ・新しい環境や場面(音)に慣れ、居残ることができる ・古い場所や場所が変更することがある ・静かな空間が好き	3. 人間関係の形成 ・顔を覗き込む、背中を叩く、押すなどの、相手の反応を察知するようになる ・大人や友だちからの動作に反応を示すこと ・顔を覗き込むこと ・顔を覗き込む、叩くこと ・顔を覗き込む、叩くこと ・顔を覗き込む、叩くこと	4. 環境の把握 ・物の型は丸いのか(丸・三角・四角・五角形等)ができる ・教員の指示やしぐさ、動作を把握すること ・自分の名前、行うこと ・動作の把握ができる	5. 身体の動き ・ボールを投げる ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く	6. コミュニケーション ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く
---	---	--	--	--	--

【現象関連図 6月】

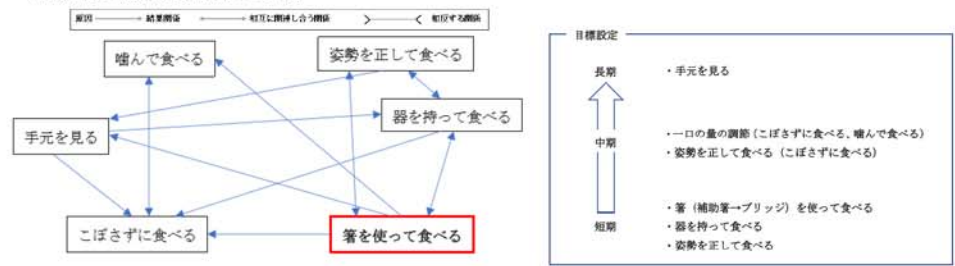


②4月～5月までの対象生徒の給食時のようすを映像データと観察記録した内容から食事に関する6区分13項目に分類、整理し、対象生徒の現象関連図を作成する。

1. 健康の保持 ・新しい食べ物から食べる ・好きな食べ物から食べる ・10分程度で食べ終わる ・口の辺りに食べ残す ・静かな空間が好き	2. 心理的な安定 ・食べるのが好き ・集中して食べることがある ・食べたくない物は「嫌まない」「飲み込まない」「吐き出す」 ・静かな空間が好き	3. 人間関係の形成 ・顔を覗き込む、背中を叩く、押すなどの、相手の反応を察知するようになる ・大人や友だちからの動作に反応を示すこと ・顔を覗き込むこと ・顔を覗き込む、叩くこと ・顔を覗き込む、叩くこと	4. 環境の把握 ・食べ残す、口に食べ残す、静かな空間が好き ・自分の名前、行うこと ・動作の把握ができる	5. 身体の動き ・ボールを投げる ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く	6. コミュニケーション ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く
---	--	--	--	--	--

【課題関連図 6月】

③食事場面における対象生徒の課題と優先する指導目標を明確化するために、対象生徒の課題を食事に関する6区分13項目に「食事場面で課題となる行為」として整理、分類を行い、課題関連図を作成し、目標設定の根拠を明らかにする。



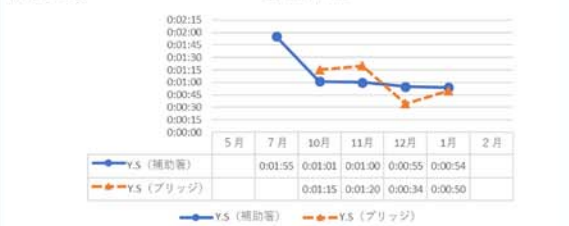
【現象課題図 10月】

6月に設定した目標及び指導・支援から観察できた生徒の行為の変化を評価し、10月時点での生徒の現象を食事に関する6区分13項目に分類、整理した後に実態把握を行った。

1. 健康の保持 ・新しい食べ物から食べる ・好きな食べ物から食べる ・10分程度で食べ終わる ・口の辺りに食べ残す ・静かな空間が好き	2. 心理的な安定 ・食べるのが好き ・集中して食べることがある ・食べたくない物は「嫌まない」「飲み込まない」「吐き出す」 ・静かな空間が好き	3. 人間関係の形成 ・顔を覗き込む、背中を叩く、押すなどの、相手の反応を察知するようになる ・大人や友だちからの動作に反応を示すこと ・顔を覗き込むこと ・顔を覗き込む、叩くこと ・顔を覗き込む、叩くこと	4. 環境の把握 ・食べ残す、口に食べ残す、静かな空間が好き ・自分の名前、行うこと ・動作の把握ができる	5. 身体の動き ・ボールを投げる ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く	6. コミュニケーション ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く ・クレヨンで線を書く
---	--	--	--	--	--

【結果と成果】

お箸の操作性の向上【5. 身体の動き】
補助箸(はしろうくん)(6月～)とシリコン製のブリッジを付けた箸(10月～)を使い、器から器への大きさ2cm×1cm程度の物体20個の器から器への移動を計測し比較した。



5月の段階では、補助箸(はしろうくん)を使用している計測は不可。7月段階では、シリコン製のブリッジを使用している計測は不可。10月以降は、シリコン製のブリッジを使用するため、計測時のみ使用。

食材を補助箸からシリコン製のブリッジを付けた箸でつまみ食べることができるようになった。食事時間についても、箸の上達とともに短縮された。

つまむ対象の位置や角度の安定と確認のための「器を持つ」「手元を見る」行為が見られるようになった。
→課題関連図にある相互に関連し合う関係として示した課題についても変化が見られた。

【学習の般化場面】
これまで外食では、スプーンやフォークを使用していた。今年度11月の校外学習での外食時において、置いてあったふつう箸を自ら使用し、唐揚げを食べる姿が見られた。

